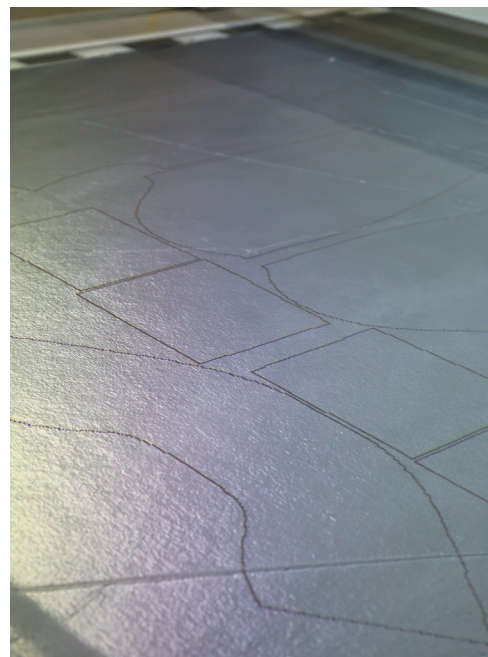


株式会社岡田織物

自動裁断機導入による合理化及び企画提案型企業への変革

ハイクオリティーなフェイクファー生地のカットをデジタル化



補助事業

裁ちばさみを使った手作業からファー専門の裁断機へ デジタル化で効率的でスピーディーな生産を目指す

明治時代からパイル織物の生産地として名高い高野口町。「岡田織物」は昭和7年に同町に開業し、平成3年に株式会社として設立。現在は高品質のフェイクファー生地の生産会社として国内外で知られている。

フェイクファーとは、本物の毛皮を模して作られた合繊生地のこと。同社が扱うフェイクファー生地は400から500種類と大変幅広く、パイル(毛)の長さも5mmから45mmまでとさまざまである。

ファー生地は主に秋冬ファッションに取り入れられる特性から、一年のうちでも7～9月に依頼が集中する。生産の工程の一つに裁断があるが、パイルが長いファー生地は機械での裁断が難しく、社員が裁ちばさみを使って一枚一枚手作業でカットするため、多くの作業時間

が必要とされていた。同時期にクライアントからサンプル作成のオーダーも多数あったが、製作時間が掛かるため、ほとんど断っている状況にあった。

同社は効率的な生産を狙い、補助事業を活用して自動裁断機を導入。ニット編み機の製造で知られる「島精機」(和歌山市)の協力を得て、ファー素材専門の自動裁断機(P-CAM161S)を購入した。同時に、デザインシステム(SDS-ONE APEX3-4)も導入し、パターン(型紙)をデジタル化して自動裁断機と連動させることで、よりスピーディーな生産を目指した。機械やシステムを導入する際には、社員2人が自動裁断機を動作させるデータ作成の講習を受講し、データ変換や型紙作成などを学んで、社内にその技術を取り入れた。

成果

多種多様なファー生地のカットが可能に デジタル化で作業時間も劇的に短縮

導入した自動裁断機のカットシステムは、裁断台の下から生地を吸引し、裁断面を平らにして固定刃で表面を切っていく。150種類以上のパイル生地の裁断テストを行って、ベストな刃圧データを構築したことで、機械による多種多様な生地のカットを受けることが可能となった。また、パターンをはじめとする裁断情報をデジタル化することで、配送や、厚紙を使った製作などが省け、工程時間や人的ミスが減少。作業時間の都合から断っていたサンプル作成も、これまでなら郵送に2日と作業に5時間かかっていたが、導入後は発送がなくなり、62分で可能となり劇的な変化を見せるなど、想像以上の成果を上げた。



今後の展開

パーツのカットを販路の一つとして拡大 「生地屋」として生産をコーディネート

このたびの自動裁断機の高度な能力により、同社でできる裁断量が倍増されることに確信が持てるようになった。そのため、今後は生地の販売のみならず、クライアントが望むパーツのカットも販路の一つとして広げる意向だ。パーツのカットは裁断工賃が上乗せされて売上のアップにつながり、輸送費や荷具梱包費を削減できるメリットも期待できる。さらに長年の「生地屋」としての知識や技術、プライドで、製品の企画・コーディネートにも力を注いでいる。

また、縮小の状況にある国内の裁断・縫製業者と連携を取りながら、事業を拡大していきたいと考えている。



高品質のフェイクファーで 地域の織物産業にも貢献

パイルの町、高野口町に昭和7年に織物業として創業。婦人衣料用のフェイクファー(人工毛皮)生地で広く知られ、海外高級ブランドにも多数採用されている。生産のみならず、自社で衣料の開発・販売も実施。また、製品の企画から縫製、刺繍、染色などの各工程を担うコーディネートを行い、地域のものづくり産業の振興にも貢献している。



代表取締役
岡田 次弘



株式会社岡田織物

代表者/代表取締役 岡田 次弘
設立/平成3年4月
資本金/1,000万円
従業員/3人
事業内容/フェイクファー生地の製造、製品販売
〒649-7207 橋本市高野口町大野757
TEL.0736-42-2864 FAX.0736-42-2313
URL: <http://okadatx.shop-pro.jp/>
Mail: okadatx@eagle.ocn.ne.jp